

議案に対する質 疑

第三セクターにおける官と民とのもたれ合いについて

問

過去の第三セクター、現在の指定管理者制度の問題として、民の官への依存、長期的な展望の欠如、官と民のもたれ合いが、全国的にも問題として挙げられている。

伊予市の行政として、株式会社まちづくり郡中に対し、どのような見解を持っているか。

答

まちづくり郡中が指定管理者として受けている町家を先般調査し、彼らが計画している部分の達成度の分析や評価を行った。

自己収入を担保として、補助金をカットできると当初見込んでいたが、何カ年にわたり市が補助金を出しているという形は、もたれ合いという指摘もある。

町家の目的は、地域内企業

の確立、そこで商店街の活性化を図ることが大原則である三カ年で、目的にかなっていないのが実情である。

まちづくり郡中等含めた市内の第三セクターの事業収益、費用対効果も含めて、再度行政の目をもっと経営的な理念に基づき分析、徹底改善を行いたいと現在動いている。

まちづくり郡中に限らず、再度地域内企業の交流という観点から、経営陣の入れ替えも含めてやる必要がある。

第三セクターは、市が50%出資しているため、施設経営者としては問題ないが、採算がとれない場合、行政が負担をしなければならぬリスクが当初から決まっております。

伊予鉄南予バスの今後の予算は

問

生活バス運行業務補助金等、一千七百万円の支出であるが、

生活バス運行業務補助金等、一千七百万円の支出であるが、

大事な路線であるので、今後この予算でいくのか。

答

現在、伊予鉄南予バスは、伊予地区唐川線が二路線、中山全域が十二路線、双海郡中線が十一路線の計二十五路線を運行し、平成十八年度に補助金の見直しを行い、一千七百万円を補助している。

南予バスからは、利用が少ないため、今年四月に六月をめどに土曜日の運行を全面廃止したいという意見が再三出ており、学校関係の広報区長あてに、この状況を連絡した。

学校の通学バスに使用している関係上、再度南予バスには、土曜日も運行してほしいと要望したが、八月一日付で



土曜日の運行が廃止になった伊予鉄南予バス

南予バス管内の八幡浜から大洲・内子・伊予・小田の土曜日の運行は会社の経営方針により、全路線廃止との通達があった。

今後は、中山の過疎バスと福祉バス等をあわせて、関係機関と協議をして検討していく必要があると考えている。

平成二十年度伊予市一般会計補正予算(第二号)

おおひら保育所建設用地に農協跡地決定

問

今年三月及び六月の議会で現在の場所での改築方針を主張してきたのに、なぜ一転してJA跡地の購入予算が計上されたのか、理由を問う。

答

これまでは、現在地での改築方針であった。農協跡地の平米単価を、以前、消防の分団詰所を農協から取得した平米当たり三万円を参考にしたので、保育所用地での検討を見送っていた。



購入予定の旧南山崎農協跡地

しかし、三月議会で地元議員、あるいは地域住民の強い要望があり、四月中旬ぐらいに農協の販売単価を問い合わせたが、この時点では回答がなかった。

JAからは財産処理の会議を経て、六月十二日に価格の提示があったが、仮設園舎の費用見積が出たのが七月下旬であった。

その後、費用対効果、地域住民の要望、早期の保育所改築等を検討した結果、JA跡地の新築移転のほうが経費的な面を含め、ベターであると判断し今回の用地購入の予算計上となった。

当初計画に疑問が生じたことは反省し、今後は、費用対効果等のより精査した計画を立てていきたい。